

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて

### つまづきをどう克服したか(22) (視覚障がいのある生徒の弓道授業について)

北海道函館盲学校教諭 工藤 純弥

本校では平成29(2017)年度より、保健体育武道において「弓道」に取り組んでいる。視覚に障がいがあり、見えない、見えにくい生徒が安全に楽しく弓道の学習に取り組むには、どのような配慮や支援が必要なのか。

本稿では、「見えないから」という理由で難しいと思われる弓道の授業に、手探りの中で続けてきた2年間の実践についてまとめた。

#### 1 はじめにー弓道に取り組む以前の武道の学習

盲学校である本校では、平成24(2012)年度の中学校武道必修化以前から、男女共習で剣道に取り組んできた。構えや素振り、足さばきなどの基本動作は身につけることはできたが、面打ちや胴打ちなどの基本打突では相手の立ち位置や面の高さ、距離感などを把握することが困難なため、相手の動きに合わせた攻防やかけひき、技が決まる楽しさなどを実

感させることは難しいと感じていた。また、柔道に取り組んだこともあるが、安全な環境の中で授業するためには、市内の武道館まで往復バスで出かけることが必要となり、十分に柔道の授業時間を費やすことが難しい状況であった。

日本武道館と全日本弓道連盟主催の全国弓道指導者研修会への参加を契機に、全日本弓道連盟並びに函館市弓道連盟から指導をいただき、弓道の授業に取り組むことが可能となった。しかし、これまで全国の盲学校では実践例がないため、先進して弓道の授業を行っている中学校の資料を参考にしつ

つ、一つ一つの様々な課題をクリアしながら授業実践に向けた準備を始めた。

#### 2 授業実践に向けて

(1)視覚障がいがあっても弓道を実践できるはずー確信できた根拠

①道具の分かりやすさ……非対称の道具であり、持つ位置などが分かりやすい  
弓具の形状、素材が触察でも分かりやすい(弓が左手、弦が右手など)。  
握り皮と籐との材質の違いによる握る位置が分かりやすい(弦の太さの違いや筈があることによる矢番えの分かりやすさなど)。

②結果の分かりやすさ……当たった位置、当たり方を自ら判断・分析ができる  
3m程度の距離で大的に矢を射る授業の中で、射法を終えた後に、自分で矢所を確かめることが

できる。弓道場では、上級者の弦音を聞いて的中した音を理解でき、自分たちとの音の違いを感じていた。クロック方向(2時の方向等)の説明を聞くことでねらい所を理解できていた。  
③動き(作法)の分かりやすさ……射法八節は一連の決まった動きである  
一つ一つの動きには、固有の名称があり、その動き方も共通のものになっているので分かりやすい。そのため道具を持たなくても言葉が発しながら動作(射法)を理解することはできていた。始まり方、終わり方が決まっているので見通しをもちやすい。

言葉による説明を聞いて、動き方へのイメージを持ちやすく、具体的な数字で表現できるので自ら考え判断して取り組みやすい。(打起し〜45度上げる、足踏み〜足を60度開くなど)  
④的は動かない、適度な音である  
……視覚障がいのある人が安心して競技である

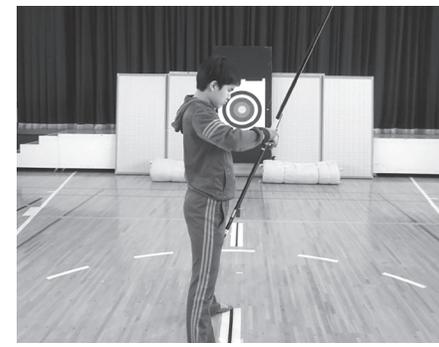
弓道では的は絶対に動かないものであり、そこに向けて射法八節

の動きを正確に行うことで、的の中での競技である。したがって相手の動きに合わせて、攻防の状況を理解したりする難しさを解消できる。また、視覚障がいのある人は音に敏感であり、弦音や的中音、安土に当たった場合でも恐怖を感じることもなく適度な音であり、安心して取り組むことができる。

(2)弓道を授業で実践するための環境設定や配慮事項として

①生徒が安心して取り組める環境設定  
普段の保健体育で授業を行っている体育館を利用して取り組むことができる。どの方向に何があるか、どこに向かって何をすべきか分かりやすい(いつも通りの授業の中で実践ができた)。

②視覚障がいに対応した教材教具  
的を外しても、はね返らない、大きな音がしない、弓具や周りの物が壊れないなどの安心・安全な環境を整えやすい。(プール用教材、畳、断熱材など、校内の備品などで代替ができた)。



床に紐ロープで凸をつける

③見えない、見えにくさへの配慮(視覚障がいのある生徒に対する配慮一般)  
▽立つ位置、足踏みの広さなどが分かりやすい配慮として(色、床の凸印)  
床に紐ロープで凸をつける、見えやすくコントラストのある色をコーディネートしたテープを床にはる、テープの長さを矢束の長さにする、などの分かりやすい環境を設定した。  
▽的の方向、距離や高さが分かりやすい配慮として(音、声、光)  
的の方向に音や光を出して、方向や距離感をアシストする。全ての基本は声や音声など、聴覚から



授業では大的を使用



全日本弓道連盟から弓具等の寄贈

(1)全日本弓道連盟からの支援(弓具等の寄贈並びに授業内容についての指導を賜る)  
授業実践の前に全日本弓道連盟より、弓具(弓・矢・胸当て・蹠・下掛け・ゴム弓)を寄贈していただくこととなった。全日本弓道連盟副会長、北海道弓道連盟会長、函館市弓道連盟会長より直接本校生徒へ手渡され、弓道の心得等の

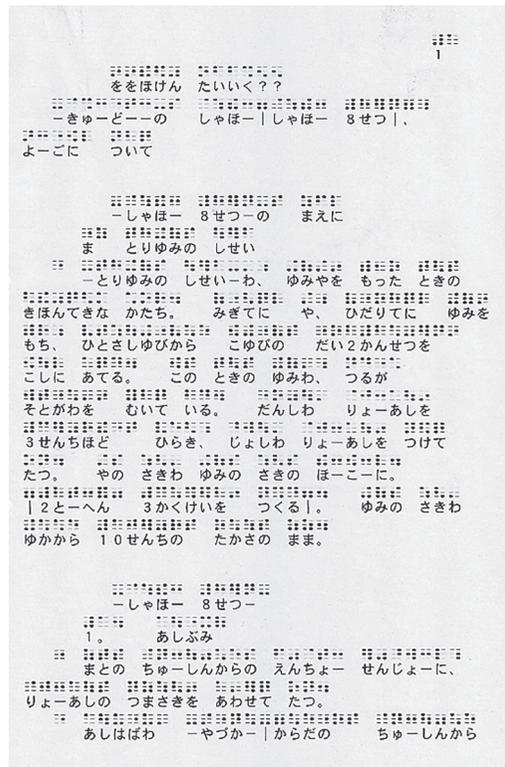
## 4 授業実践より



ゴム弓を使って射法八節の練習

(2)「弓道授業指導の手引き」『少年弓道』の活用  
弱視の生徒には、「少年弓道」の絵(漫画)を拡大コピーして冊子にした。全盲の生徒には、手引き等を点字に訳した文を冊子にして教科書として扱った。言葉による説明を聞くよりも、教科書を活用したことで更に理解度が高まった。

お言葉をいただいた。  
授業内容については、「巻藁よりも大的を使った練習の方が安全である」との指導をいただき、準備に取りかかる。



点字で作成した「射法八節」の解説文

(3)射法八節の動作習得を目指し、繰り返して取り組んだ基本練習  
徒手、紐、ゴム弓を使って、体の動かし方の習得を目指した。特に紐弓では結び目の位置があることで全盲の生徒にも、打起こしや大三が分かりやすく、離れでも安心して取り組んでいた。また、ゴム弓は「手の内」を理解することや、「引分け」の感覚を得るには適した教材であった。  
前練習は、約3m手前から大的(直径約80センチ)を使用して

行った。一通りの体配を終えた後に、的に触れながら矢所を確かめた。

## 5 2年間の実践をふり返って

(1)函館市弓道連盟からの支援、理解、協力(弓道場での学習体験)  
単元の最後に弓道場を訪問し、道場内や練習風景を見学した後、巻藁や矢道からの前練習などを体験させていただいた。実際に矢



弓道場にて初めての巻藁練習

## 3 弓道の実践

(3)教育課程への位置づけ  
保健体育武道として教育課程に位置づけるためには、単元目標、指導計画、評価基準などの整備が必要となる。学習指導要領解説などに例文が掲載されていないため、全日本弓道連盟作成の「弓道指導の手引き」や「少年弓道」などの文献を参考に作成した。

(1)単元目標  
▽弓道の定められた作法により、立ち方、歩き方などの基本的な動作ができ、射法八節を中心とした技能を身に付けるようにする。  
▽弓道具の扱い方や、射法八節の名称を知り、学習の仕方を工夫することができるようになる。  
▽弓道の学習の仕方や安全に気を配り、礼儀作法や相手の立場を尊重し、協力する態度を育むことができるようになる。

## (4)評価基準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
・弓道の学習に積極的に取り組んでいる。 ・安全に留意し、礼儀作法や相手の立場を尊重して取り組んでいる。	・仲間と協力し、自分の役割を果たした。練習したりして、安全に留意し、礼儀作法や相手の立場を尊重して取り組んでいる。 ・基本動作を身に付けるためのポイントを見付け、課題解決に適切な練習方法を選んでいる。	・弓道の基本動作と立ち方について理解した技能を身に付け、学習した具体例で行うことができる。 ・弓道の定められた作法により、立ち方を正しく、書き出したたりして行方などの基本動作ができる。	・弓道の特性や成り立ちについて理解し、学習した具体例を挙げて説明できる。 ・武道の伝統的な考え方について、理解し、書き出したたりして行方などの基本動作ができる。

(北海道函館盲学校編)

(3)学習計画(1年次) ……18時間	主な学習内容	使用教材	備考	
9/19(火)	教室	オリエンテーション 弓道の歴史について	DVD 点字参考書、 拡大文字参考書	1時間
10/3(火)	体育館	道具の名称 学習のしかた 注意事項について	解説資料 弓	1時間
10/6(金)	体育館	基本動作を知る (射法八節)	紐、ゴム弓	1時間×3
10/10(火)	体育館	徒手、紐、ゴム弓 大的への射	弓、矢	1時間×3
10/12(木)	体育館	大的への射	蹠、胸当て	1時間×3
10/21(土)	体育館	大的への射	蹠、胸当て	1時間×3
11/7(火)	教室	弓道場を知る 道場における作法 道場にて射る	点字教科書、 拡大文字教科書、 自己評価用紙	1時間
11/14(火)	教室	自己評価	自己評価用紙	1時間
11/17(金)	弓道場	道場における作法	蹠、胸当て 弓、矢	1時間×2



弓道場での近距離からの的的練習



実際の的に触れて大きさを確かめる

(2) 学校公開日による弓道の授業の一般公開

学校公開日に合わせて、弓道の授業を一般公開した。ゴム弓を使った練習や、3m手前からの的的練習を見て「初めて弓道の授業を見た」、「全盲の生徒が的に当たったのには驚いた」、「集中して取り組む姿に感動した」等の言葉を参観者からかけてもらった。そうした声が生徒の励みとなり、また弓道の授業に対する理解にもつながったのではないかと思われる。

(3) マスコミによる報道（北海道新聞）

弓具等の寄贈式に取材に来た新聞記者が、指導計画や指導内容に興味をもち、その後も何度か継続的に授業の様子を取材していた。また、弓道場での授業にも同行し、それら一連の内容が記事として社会面で大きく掲載された。こうしてマスコミにあげられたことで、各方面から賛辞の言葉を多くいただき、問い合わせがあるなど、思った以上に周囲への反響が大きく驚いている。弓道の授業に

対する理解を高められたほか、視覚障がいのある生徒たちの社会参加、共生社会に向けた意識を広げられることができたのではないかとと思われる。

(4) 生徒の声（アンケートより）

Q1：弓道の楽しさや魅力は？

▽離れの後に矢が当たった時の気持ちよさ。

▽射法をきちんとやれば当たる。

▽自分の性格が分かるような気がする。

▽弓を引くときの緊張感。

Q2：弓道の学習で心がけたことは？

▽射法八節と姿勢を正すことを心がけた。

▽何も考えず、的を見つめること。

▽的に当てようと意識し過ぎない。

▽大三から集中力を高める。

Q3：弓道の学習で思い出に残っていることは？

▽巻藁練習で外してしまったこと。

▽桑田秀子先生（範士八段）が学校に来て、教えてもらったこと。

6

成果と課題

▽弦が胸に当たって、めっちゃ痛かったこと。  
▽弓道場で外に出て、的をねらって矢を放ったこと。

(1) 2年間の成果として

① 盲学校の生徒が実践できたこと  
指導者が初心者であっても、様々な方より指導や理解、協力を得ることができ、「弓道が楽しい」、「来年もまたやってみたい」という生徒の声を受けて、視覚障がいのある見えない、見えにくい生徒であっても安全に楽しく弓道の授業が実践できた。  
② 地域や社会へ弓道の実践を発信できたこと  
新聞やラジオ、ホームページや学校公開などで、本校での弓道の授業を発信することができたことにより、視覚障がい者への正しい理解や弓道の魅力を伝えることができた。

③ 武道としての授業を確立できたこと

中学校学習指導要領武道のねらいや目標に準じて、弓道の単元目標や指導計画、評価基準を作成することで、弓道を武道の授業として確立できた。前例のないことではあるが、今後も本校の特色ある学習として継続していきたい。  
④ 弓道の魅力が生徒自身の自信につながったこと

的と向き合っている生徒の集中力は、さらなる向上心を高め、的中を生み、それらが弓道の楽しさにつながっていった。そうした積み重ねによって自分の変化を実感

でき、自らの行動に自信をもてるようになった。また、自宅玄関の靴の並べ方に変化が見られた生徒もあり、弓道の授業を通して精神的にも、生活のマナー面でも自身の成長を感じることができた。

(2) 課題として

1年目は無我夢中で取り組み、18時間という保健体育最大の配当時数としたため、2年目は他の単元との関係で10時間余りとなった。その分、初心者には十分に基礎練習に取り組む時間がなく、射の楽しさを実感させることができなかった。

7

次年度以降に向けて

来年度以降も継続し、生徒自らが成長を感じられる指導内容と、

昨年の経験者は、約1年ぶりの弓道であったが、忘れていたことが多く、同じような内容で2年続けての学習となった。座射、二矢など発展内容を少しでも取り入れて、昨年よりもレベルが上がったと実感をもたせるための工夫が足りなかったと考える。

単元構成を工夫しながら取り組んでいきたいと考えている。また、盲学校の生徒が正しく理解される、「障がい者ではなく、一人の中学生」という差別感や偏見のない社会の一員として様々な人と関わり、生涯スポーツとして弓道に親しむ基礎を育み、楽しく学んでほしいと願う。そのためにも、自身の弓道の技術、指導力を高めるための努力も必要である。今後、全日本弓道連盟並びに函館市弓道連盟からの指導をいただきながら、さらなる発展を目指していきたい。

日本教育新聞 電子版 サービス スタート!  
「いつでも、どこでも、見たいときに。」

スマートフォン・タブレット対応

日本教育新聞 NIKKYO WEB

「日本教育新聞」  
ご購入の方は  
電子版無料!!

お試し無料会員  
募集中!

ホームページからは  
会員登録をクリック!

まずはカンタン  
無料会員登録!



日本教育新聞社 JAPAN EDUCATIONAL PRESS  
日本教育新聞 検索